

「プロメテウス」人類に火を与えたギリシア神話の神族

プロメテウスの罪わな

原発のごみ 16

見直し論をつぶせ

2012年夏、東京・永田町の国会議員会館で「今後の核燃料サイクル政策について」という文書が出回った。A4で13ページ、副題に「六ヶ所再処理工場の運転」とある。

「再生可能エネルギーを増やしても火力・原子力を置き換えることは困難で、核燃料リサイクルと組み合わせた原子力を利用しなければ、我が国の将来世代を危機に陥れる」

「半世紀にわたり進めてきた原子燃料サイクルを廃止すれば、大きな政策変更コストが発生する」――作成者は青森県六ヶ所村の核燃料サイクル施設を運営する日本原燃幹部。原子力委員会などで進む核燃料サイクル見直し論への反論、ペーパーだった。

その年2月、民主党の国会議員有志による勉強会が、核燃料サイクル

見直しのための具体的な方針を示した提言を発表していた。

会長は馬淵澄夫(56)。核燃料サイクル政策は実質的に破綻しているとして再処理工場の稼働を中断し、各都道府県などで使用済み核燃料を保管する(責任保管)という案だ。

原燃の反論、ペーパーは自らの論理でこれも批判した。「実現不可能。荒唐無稽な『無責任提案』だ」

再処理をやめた場

再生可能エネルギーを最大限に増やして火力を利用しなければ、我が国のエネルギー資源に乏しい中、核燃料リサイクルの長所を、更に高エネルギーの兵器の懸念が、非核拡散的(2011年)日本原燃の幹部がつくった資料

馬淵の勉強会には約70人の議員が参加していた。ところが提言内容が外に伝わりだすと、署名できないという議員が1人2人と出てきた。

「地元の選挙区で大変なことになっていて……」

選挙を支える電力系労組などが反発しているのだという。結局、提言に議員の署名は付けられなかった。

安倍政権にかわった後の13年のお盆前、自民党の村上誠一郎(61)は、同党の「福島原発事故究明に関する小委員会」委員長として、今後のエネルギー政策に関する提言の素案をまとめた。村上は特定秘密保護法案の衆院採決で自民党でただひとり棄権した議員だ。

「使用済み燃料棒の処理法について

「それは10年以内に結論を出すこと」
「それまでは原発の新規建設を見送る」。そんな内容だった。

村上は思っていた。再処理で取り出したプルトニウムを使う高速増殖炉もんじゅが重大事故を起こしたら対応できない。そうした問題をまずは解決すべきではないのか――

だが、経済産業省出身の議員や電力族議員から猛反発を受ける。こう書き直さざるをえなかった。

「核燃料の最終処理法については可及的速やかに経産省が方針を策定すべきである」
(小森敦司)